

1935 年台湾新竹-台中地震の台中州における地震記念碑について

修平科技大学 人文與創意学院 応用日語系* 塩川 太郎
(佛教大学大学院 日本史学専攻 博士後期課程)

The Memorial Towers in Taichung Prefecture of the 1935 Hsinchu-Taichung Earthquake

Taro SHIOKAWA

Department of Applied Japanese, Hsiuping University of Science and Technology
No.11, Gongye Rd., Dali Dist., Taichung City 412-80, Taiwan
(Graduate School of Literature, Bukkyo University)
(Kitahananobocho 96, Murasakino, Kita-ku, Kyoto 603-8301, Japan)

The Hsinchu-Taichung Earthquake of M7.1 was occurred in the central part of Taiwan on April 21, 1935. The serious damage of 3,279 dead people caused by this earthquake. This is the earthquake that caused the biggest damage in a record in Taiwan. In Taichung Prefecture, there is known to be the memorial towers in 3 areas of Naihō-shō and Kamioka-shō and Kiyomizu-gai which suffered big damage. As a result of investigation, these three memorial towers varied in the original setting purpose each. In these, manipulation and restoration were enforced after World War II. However, the three monuments were preserved as an earthquake disaster mourning monument now. Furthermore, a memorial ceremony is held by all monuments every year in April. It was revealed that these memorial towers maintained the duty of the dispatch device which conveyed a message of past earthquake damage in the present age.

Keywords: 1935 Hsinchu-Taichung Earthquake, Memorial Tower, Taichung Prefecture, Taiwan under Japanese rule

§1. はじめに

新竹-台中地震は、1935 年(昭和十年)4 月 21 日に台湾中部で発生した M7.1 の地震である。屯仔脚断層(台中州)及び獅潭断層(新竹州)が活動し、台湾中北部地域で、死者 3279 名、重軽傷者 12119 名、住宅全壊 17927 棟等の大規模な被害が発生した[台湾総督府(1936)]。これは、台湾における記録上最大の被害を起こした地震である[鄭世楠・葉永田(1989)、蔡衡・楊建夫(2004)]。

当時は日本統治時代であったことから、台湾総督府が中心となって関東大震災など日本本土における地震の経験を元に復興を行った[陳正哲(1999)]。その後、総督府が進めた自力更生運動の一つとして被災地に地震記念碑が建てられた。台中州(現在の台中市)では、屯仔脚断層の影響で壊滅的被害を受けた内埔庄(現在の后里区)、神岡庄(現在の神岡区)、清水街(現在の清水区)の 3 地域に地震記念碑

があることが知られている。

これらの記念碑の碑文には、震災の様子や犠牲者名などが記され、過去の震災の記録を示す重要な資料となっている。しかし、これらは台湾の地震関連資料や地方史文献等に個別に紹介されているものの[張漢鄒(1989)、楊紫宗(1998)、羅永珍(2009)など]、3 か所の地震記念碑を詳細に比較した文献はほとんど無い。また、記念碑は日本統治時代に建てられたため、一部の碑では、戦後大陸から渡ってきた中国国民党が独裁していた時期に、日本統治を示す碑文が消去されたり、改竄されたりした。しかしながら、これらの碑では毎年追悼式が行われ、震災で亡くなった人々を供養する地元住民の活動が続けられている。

そこで本論では、台湾における石碑が持つ社会的意義及びその重要性を示すために台中州における 3 か所の地震記念碑の現状を明らかにした。

* 412-80 台湾台中市大里區工業路 11 號
電子メール: kuwataro@mail.hust.edu.tw

表1 台中州における1935年台湾新竹-台中地震の被害

Table 1 Damage caused by 1935 Hsinchu-Taichung Earthquake in Taichung Prefecture.

地区	死者(人)	重軽傷者(人)	全壊(戸)	半壊(戸)
内埔庄	962	3641	1694	383
神岡庄	508	2145	936	155
清水街	312	766	1384	1406
沙鹿庄	36	239	269	385
梧棲街	24	78	317	481
豊原街	21	123	119	192
東勢街	19	100	238	164
外埔庄	11	36	126	67
石岡庄	8	147	183	279
大雅庄	3	4	3	36
彰化市	2	4	9	34
龍井庄	2	55	57	189
新社庄	1	3	11	12
大甲街	1	17	65	178

資料:昭和十年台湾震災誌(台湾総督府)をもとに作成

記念碑の碑文は国立中央図書館台湾分館発行の『台湾地区現存碑碣図誌 台中縣市・花蓮県篇』に縮図が記されているが、一部の碑文は掲載されていない[何培夫(1997)].そこで碑文を正確に記録保存するため、2013年4月19~21日にこれらの記念碑において拓本を試みた。石碑の碑文は複数個所に刻まれているため、面の位置情報を図1のように定めた。正面をA面とし、時計回りにB面、C面、D面とした。

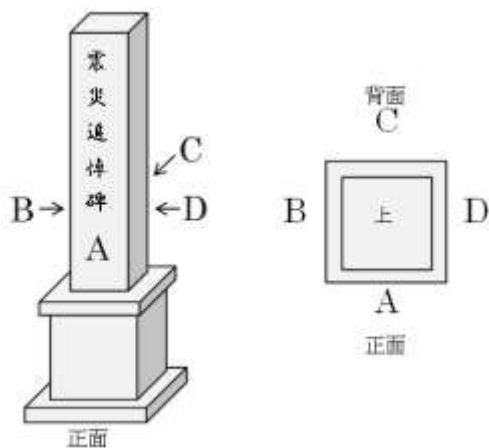


図1 本論における石碑面の呼称

Fig.1 Name of the memorial tower surface in this article.

§2. 台中州における地震記念碑

2.1 内埔庄の地震記念碑

内埔庄は、台中市北部の大甲溪と大安溪の間に位置し、現在の行政区分は台中市后里区に属している。地震記念碑がある内埔庄、神岡庄、清水街の3つの地域の内、内埔庄が震源に最も近い。新竹-台中地震による内埔庄の被害は、死者962名、重軽傷者3641名、住宅全壊1694棟、住宅半壊383棟であった(表1)。屯仔脚断層が内埔庄の市街地内を通過したことから、住宅全半壊率が内埔庄の七塊厝(人口839人)では96%、舊社(人口1394人)では94%、后里(人口1725人)では93%に達した[被害数、被害率については、いずれも台湾総督府(1936)].

① 設置場所

地震記念碑は、地震発生から1年後の1936年4月に后里国民中学校内に設置された。1961年の中学校校舍移転の際に記念碑は后里区役所北側の広場(鎮安宮南側)に移設された[陳義貞(2007)](図2)。

② 地震記念碑概要

記念碑の素材は玄武岩で、碑の製作者名(石工)がC面下段に「大甲郡清水街許成財承造」と刻まれている。記念碑は、上段、中段、下段の3段に基壇を

加えた構造である。基壇の幅は 405cm，高さが 46.5cm である。石碑の下段部の高さが 109.5cm，中段部が 99cm，上段部が約 215cm である(図 3)。上段部の石碑の幅は 4 面とも 54cm でほぼ正方形である。また下段部 4 か所(基壇の四隅の対角線上)に渦巻き状の彫刻が施されている(図 4a)。



図 2. 内埔庄の地震記念碑
Fig.2 Memorial tower in Naiho-sho.
(2013 年 4 月筆者撮影)

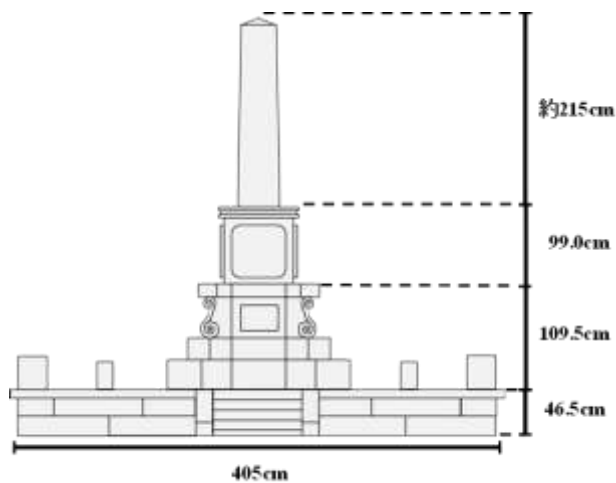


図 3. 内埔庄の地震記念碑概略図
Fig.3 Memorial tower diagrammatical view in Naiho-sho.



a. 内埔庄 b. 清水街

図 4. 内埔庄と清水街の地震記念碑で見られた渦巻き状の彫刻(拓本)

Fig.4 Sculpture of curliness seen by the memorial towers in Naiho-sho and Kiyomizu-gai (Rubbed copy).



a. 内埔庄 b. 神岡庄 c. 清水街

図 5. 台中州における地震記念碑の正面碑文(拓本)
Fig.5 Front epitaph of the memorial tower in Taichung Prefecture (Rubbed copy).

③ 碑文

A 面上段(正面)

「大震災内埔庄殉難者追悼碑」(図 5a).

B 面上段

「台中縣后里鄉 鄉長 張銀湖題」

C 面上段(背面)

「時維中華民國二十四年四月二十一日上午六時零二分 本省中部地區遭遇大地震 一時山崩地裂 飛來橫禍 尤以本鄉災情最慘 民房倒塌十之八九 面目全非 庄長張堪 助役張花暨庄民一千零二人 罹難 輕重傷三千零八十四人 無家可歸者二千三百九十六戶 哀鴻遍野 滿目瘡痍 慘狀不可言喻 嗚呼慘哉 茲值震災三十週年遷建現址 並謹誌概略 爲殉難者悼意 藉資永垂

中華民國五十五年四月二十一日 后里鄉長 張銀湖 謹誌」

これに加え、震災犠牲者名(D 面と合わせ約 1000 名)が刻まれている。

D 面上段

C 面同様に震災犠牲者名が刻まれている。

このように碑文はすべて漢字で刻まれているが、後述のように正面以外は改竄された形跡が見られ、現在の碑文は元の碑文とは異なっている。

④ 改竄について

正面碑文には、改竄の形跡が見られないが、B、C、D 面において改竄の跡が見られる。改竄は、記念碑の表面を長方形型に薄く削り取り、その上に改竄した文字を新たに刻んだ部分(C 面上段)(図 6)と、その削り取った部分に文字を刻んだ薄い石板を張り付けた部分(B 面、C 面下段、D 面)が見られる。しかしながら、この改竄による原文の消去は完全ではなく、C 面では、日本語と思われる元の碑文が一部残されているのが見られる(図 7)。この残された部分から「長張」「ラス」「ナシ」という文字が読み取れる。

なお、改竄された時期は、記念碑 C 面の改竄部分に記された碑文から 1966 年 4 月 21 日であると考えられる。

⑤ 追悼式

追悼式は、記念碑が設置された 1936 年の 4 月から毎年行われ、戦後日本統治時代が終わり、中華民国

となってからも続けられている[陳義貞(2007)]. 2013 年の追悼式は、4 月 26 日に記念碑前の広場において后里区役所主催で行われた。

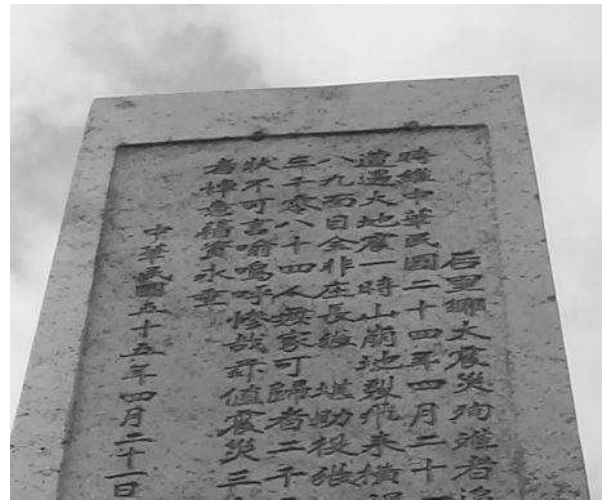


図 6. 改竄された地震記念碑(内埔庄)
Fig.6 Trace of the alteration in the Memorial tower (Naiho-sho).

(2013 年 4 月筆者撮影)



図 7. 改竄後に残された碑文(内埔庄)
Fig.7 The original epitaph which was left (Naiho-sho).

(2013 年 4 月筆者撮影)

2.2 神岡庄の地震記念碑

神岡庄は、大甲溪南部の台中市清水区と豊原区の間位置し、現在の行政区分では台中市神岡区となっている。神岡庄は、内埔庄や清水街に比べ小さな町が多かったが、ここでも屯仔脚断層が通過したことから、深刻な被害が生じた。地震による神岡庄の被害は、死者 508 名、重軽傷者 2145 名、住宅全壊 936 棟、住宅半壊 155 棟であった(表 1)。中でも断層が通過した新庄子(総人口 1116 人)では、住宅の全半壊

率が 100%に達し、壊滅した集落も見られた[被害数、被害率については、いずれも台湾総督府(1936)].

① 設置場所

地震記念碑は、内埔庄と同様に地震発生から1年後の1936年4月に神岡庄衛生所横の広場に設置された(図8). 現在もここに置かれているが、1998年に整備・修復され、広場の入り口には鳥居型のモニュメントが造られた(図9). また記念碑前にはその修復を記念した小さな碑が設置されている.

② 地震記念碑概要

記念碑の素材は花崗岩で、製作者名がC面下段に「惠安許成財勤」と刻まれている. 記念碑は、上段、下段の2段に基壇を加えた構造である. 基壇の幅は351.5cm、高さが48cmである. 石碑の下段部の高さが76.5cm、上段部が192cmである(図10). 上段部の石碑の幅は42cmでほぼ正方形である.

③ 碑文

A面(正面)

「大震災神岡庄殉難者追悼碑」(図5b)

B面

「臺中州知事正五位勲三等日下辰太書」

C面(背面)

「大震災神岡庄殉難者追悼碑

昭和十年歲乙亥四月二十有一日 中部臺灣一帶突發未曾有之大地震 一時地裂山崩 牆傾棟折 爲此被壓而殞命者 爲數甚鉅 我神岡庄之遇害僅亞於同郡最劇之内埔庄 庄人死難者 年齒最高之陳尖氏外 男女老幼多至五百三十七人 嗚呼慘哉 事經期年 慘狀在目 謹記概略 用識悼意云爾

昭和十一年丙子四月吉日 神岡庄立」

D面 碑文無し

このように碑文はすべて漢字(当時の中国語である漢文)で記されている. なお、記念碑前面の基壇上には、改修した際に設置された80cm四方の小さな記念碑があり、中国語で説明が刻まれている.

④ 改竄について

神岡庄の記念碑では、2013年4月の調査時には改竄された部分は見られなかった. ところが、過去に改竄は行われていたようで、頼志彰ら(1985)によると、戦後、B面の「知事正五位勲三等日下辰太書」の部分とC面碑文中の「昭和」の文字が、埋められて見

えないようにされていたということが述べられている.



図8. 神岡庄の地震記念碑

Fig.8 Memorial tower in Kamioka-sho.

(2013年4月筆者撮影)



図9. 神岡庄の地震記念碑前に設置された鳥居

Fig.9 The Torii which was built in front of the memorial tower in Kamioka-sho.

(2013年4月筆者撮影)

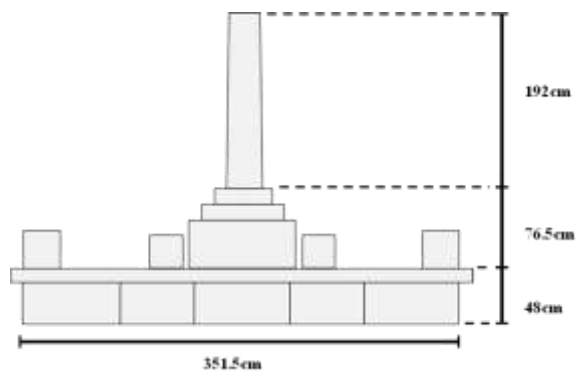


図10. 神岡庄の地震記念碑概略図

Fig.10 Memorial tower diagrammatical view in Kamioka-sho.

しかし、1998年に記念碑周辺の改修工事とともに記念碑が修復され、文字も元通りに直された。そのため、現在は改竄の無い元の状態の記念碑を見ることが出来る。

⑤ 追悼式

追悼式は、記念碑が設置された1936年から毎年行われ、現在まで続けられていることが、区役所での聞き取り調査より分かった。しかし、神岡区では日本統治時代における慰霊祭の資料が見つかっていないため詳細は不明である。なお2013年の追悼式は、4月19日に記念碑前の広場において神岡区役所主催で行われた。

2.3 清水街の地震記念碑

清水街は大甲溪の河口部南側に位置し、現在の行政区分では台中市清水区に属している。清水区の西部は台湾海峡に面しているが、清水街は清水区の東部側(内陸側)である。当時、清水街は、大甲郡役所の所在地であり、鉄道が通り、台湾中部地域の流通網の重要拠点であった。屯仔脚断層からは少し離れていたものの、土角造り(台湾の伝統的な土壁の建築)の建物を中心に崩壊が起き、人口が密集していたため大きな被害が生じた。地震による清水街の被害は、死者312名、重軽傷者766名、住宅全壊1384棟、住宅半壊1406棟であった(表1)。なお、清水街中心部である清水(人口8422人)の全半壊率は52%であった[被害数、被害率については、いずれも台湾総督府(1936)]。

① 設置場所

地震記念碑は、旧清水神社(現在の鰲峰山公園)の参道脇に設置されている(図11)。設置時期は、他の地域と同様に地震発生から1年後の1936年であると公的なホームページでは紹介されているが、記念碑には記されていない。

② 地震記念碑概要

記念碑の素材は玄武岩で、碑の製作者と思われる名がB面上段に「清水街許泉義刻」と刻まれている。記念碑は、上段、中段、下段の3段に基壇を加えた構造である。基壇の幅は410cm、高さが75.5cmである。石碑の下段部の高さが119cm、中段部が100cm、上段部が約258cmである(図12)。上段部の石碑の幅は4面とも62cmでほぼ正方形である。また内埔庄の記念碑と同様に下段部4か所(基壇の四隅の対角線上)に渦巻き状の彫刻が施されている(図4b)。



図11. 清水街の地震記念碑

Fig.11 Memorial tower in Kiyomizu-gai.

(2013年4月筆者撮影)

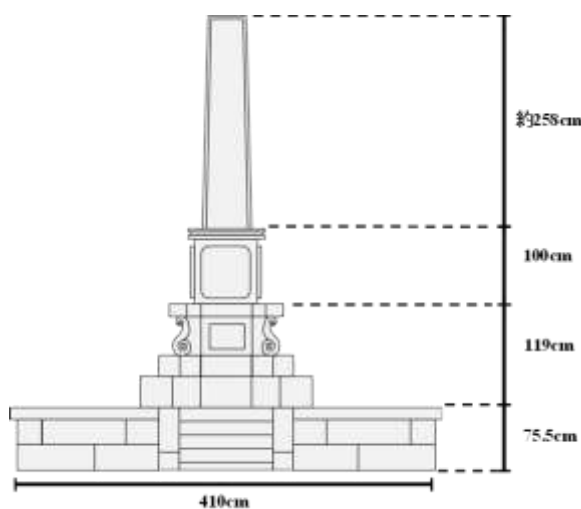


図12. 清水街の地震記念碑概略図

Fig.12 Memorial tower diagrammatical view in

Kiyomizu-gai.

③ 碑文

A 面上段(正面)

「震災記念碑」(図5c)

B 面上段

「中華民國六十五年四月二十一日重修
鎮長吳政彥顯」

C 面上段(背面)

「民國二十四年四月二十一日拂曉六時二分濃震突襲臺灣中部地方 山崩地裂屋塌樓傾 猛火燄飛蔓延 巨萬之財貨燼化為烏有 和平之樂土一剎那變成阿鼻地獄哭號之巷 死亡者三百四十人 重輕傷者計有八百人之衆 全倒壞屋房一千四百零一戸 半塌大破房屋計達一千九百七十三戸 財寶之損失三百五十餘萬元 滿目慘然 天昏地腥 成為慘淡廢墟 骨肉離散 老幼失所 仰天空哀歎 伏地相悲泣 遭遇空前之慘死 其災情報達州憲時隨部署救護警備竝施軍警 公私團體接踵來援 供以食救以饑 達屋以收容罹災難民負傷者 派醫治確保治安 儆戒流言圖安民心 由國庫及州費撥出六萬元援以復舊 融通低利資金供民借用 減免各種公課稅捐等等負擔 與便修復天下 同情者翁然雲集義捐款數算二十七萬元 鎮民穆然感激 勃勃雄氣重修家園 鋪橋整路 疏通河川 開創學校托兒所 不屈不撓惟圖鄉土之復興 振奮精神 協心戮力 隣保相扶助 邁進重建之途 光陰如梭 倏閱四十二寒暑之今天 回憶昔日一望蕭條悽愴之本鎮 而今面目煥然一新 坦平之大道 廣廈高樓林立 嗚呼 均受罹災死亡者之德蔭及鎮民以血汗創造之勞功 茲特豎紀念碑銘誌千古與天地同朽

中華民國六十五年四月二十一日
清水鎮 蔣介石 江澤繙譯並書」

D 面上段

「震災日期 國歷民國廿四年四月廿一日
農歷歲次亥年三月十九日」

中段のB, C, D面には、震災犠牲者名(340名)が彫られている。

④ 改竄

清水における碑文の改竄は2回に分けられる。一回目として1961年に撮影された記念碑の写真から、まず記念碑の正面碑文がはっきり見えないように文字を埋めるなどの改竄が施行されているのが分かった。そして二回目では、元の石碑(記念碑上段部)が全く見えないように、新たな石板で覆い隠した状態となっている(図13)。この石板に刻まれた年代より、二回目の改竄は1976年に行われたと考えられる。

⑤ 追悼式

追悼式は、現在は毎年行われているが、いつから行われるようになったのかについては資料が見つか

っていないため不明である。2013年の追悼式は、4月21日に清水区役所主催で行われた。また、他の地域と異なり、記念碑前と碧華寺(記念碑近くの清水街にある寺)の2か所において追悼式が行われた。なお碧華寺には、「清水街震災殉難死者諸精霊」の位牌が安置されている[蔡紹斌(1996)]。



図13. 石板で覆われた清水街の地震記念碑

Fig.13 Memorial tower in Kiyomizu-gai which was covered in slate.

(2013年7月筆者撮影)

§3. 考察

3.1 製作時期

記念碑の製作時期は、どの碑も震災発生から1年後の1936年とされている。しかし、碑に設置日が刻まれているのは神岡の碑のみで、内埔と清水では改竄のため碑文から確認することができなかった。碑文以外で確認できたのは、内埔の碑で1936年4月の記念碑設置の際の記念写真が残っていたことから、1936年に設置されたのは間違いないだろう。一方、清水の碑については、設置当時の写真や資料が見つからず、現段階では1936年に設置されたかどうか確証を得ていない。

3.2 碑の形式と製作者(石工)

内埔と清水の碑は、どちらも三段構造で高さが5m近い大型の碑であり、形も非常によく似ている。また、

下段には渦巻き状の彫刻が四隅に彫られていることも両者の特徴である。ところが、内埔の製作者は清水街の「許成財」であるのに対し、清水の製作者は清水街の「許泉義」であった。これらの人物について調査したものの、現段階では「許成財」が清水街にいた人物ということしか情報が無く、「許成財」と「許泉義」の関係も不明のままである。しかしながら、内埔と清水の碑がよく似ているという点や、同じ清水街の住人であるということから、両者には統一規格の意図があったと思われる。

一方、神岡の記念碑は、内埔や清水と比べ、2段階構造の比較的小さな碑であった。碑の形は異なるものの製作者は、「許成財」と刻まれていることから、時期的及び地理的なことを考慮すると、神岡の碑は内埔と同じ人物による作品と考えるとよいだろう。

3.3 碑文と記念碑設置の目的

内埔と清水では碑文全体に改竄が行われたため、元の碑文の詳細な比較や分析を行うことは困難である。しかし、改竄される以前の正面からの写真が見つかったため、3つの碑の正面碑文を比較してみた。

内埔は、正面碑文において改竄は無かったため、現在の碑と同じ「大震災内埔庄殉難者追悼碑」である。神岡も大きな改竄が無かったため、こちらも現在の碑と同じ「大震災神岡庄殉難者追悼碑」である。

一方、清水は、現在は「震災記念碑」となっているが、改竄される前の1961年の写真と記念碑周辺の住人の証言から、元の碑文は「皇恩無窮」であったことが確認できた。つまり、設置当初は内埔と神岡が震災追悼碑であったのに対し、清水の碑は追悼碑ではなく皇民化運動のプロパガンダの碑であったことが分かった。このことから、内埔と神岡の碑が被災地や集落の中心部に設置されているのに対し、清水の碑のみが神社の参道脇に設置されているという設置場所の違いがあった理由が説明できるだろう。また、皇民化運動が台湾で広まるのは1937年以降であったことから、清水の碑は内埔や神岡の碑よりも、もう少し遅い時期に設置された可能性も考えられる。そしてそのことが、設計は似ているものの、製作者(石工)が異なるという結果と関係している可能性がある。

3.4 施主

記念碑の施主については情報が少ないため、明確な答えが分かっていない。しかし、碑文やその他の史料、及び記念碑の形状などから考察してみた。3つ

の記念碑は、日本における地震記念碑[例えば京丹後市史編さん委員会(2013)]と非常によく似た形状であり、中華的ではないことから、統治する側の日本の文化が大きく関与していることが分かる。そのため、復興を行った日本側の公的機関(台湾総督府や州庁)によって碑が建造されたことが考えられる。

まず、神岡の記念碑は、①碑の一面を使って台中州知事名が大きく記されている。②碑文が、日本語ではなく、漢文である。つまり、日本側の意向が強い台湾総督府が設置した碑ではないと言える。③台中州庁発行の震災復興記念絵葉書に神岡の記念碑のみ掲載されている。④内埔庄や清水街の記念碑に比べ小さい碑である。これらのことから、台中州庁が中心となって神岡庄のために碑を設置した可能性が高い。碑文が漢文であるのは、神岡の住人が読めるように考慮した結果だと思われる。

そして次に、清水の記念碑は、①正面碑文が「皇恩無窮」である。②神岡の碑よりも大型で、威圧的な印象を持つ。③神社の参道脇に設置。これらのことから、台中州庁よりも上の機関である台湾総督府が大きく関与した碑であると思われる。

最後に内埔の記念碑は、①清水と同様の形状、大きさの碑である。②碑文が日本語である。③清水と同様碑文のほとんどが改竄されている。これらのことから、内埔の碑も清水と同じ台湾総督府が関与して造られたものであると考えられる。

つまり、台湾総督府は、被害の最も大きかった内埔庄に復興の記念として地震記念碑を建て、中部地域の重要拠点である清水には、1937年の清水神社の建築に合わせて皇民化運動のプロパガンダとしての碑を建てたということになる。そして、農村地帯ではあったが被害が大きかった神岡庄には、台中州庁が代表して記念碑を設置したということが考えられる。

3.5 改竄と修復

改竄は3か所の記念碑全てで見られたが、改竄の方法や修復などは場所によって異なっていた。

まず、内埔庄の記念碑では、碑文部分を削り取り、そこに新たな碑文を記す方法であったため、現在は碑から元の碑文全体を確認することはできない。役場にも原文の資料が残っていないことから、現段階では碑文の解析は難しい。また碑の一部に元の碑文が残された箇所があり、元の碑文の言語が日本語であることが分かった。これは碑文の端の部分であることから、意図的に残したのではなく、単に施行の際に削り残

されただけであると考えられる。また D 面では、薄い石板を張り付けた際の接着剤と思われる物質が年月とともに染み出し、外観を汚している。このように削り残しや接着剤の問題などから考えると、改竄を施行した業者の技術レベルが低かったことが伺える。

次に神岡庄の記念碑では、元の碑文が漢文であることから大幅な改竄は行われなかったが、日本統治を示す元号や台中州知事名の文字が読めないように施されていた。しかし、1998 年に神岡郷長の意向により記念碑と周辺環境の整備が行われ、改竄されていた文字が修復された。またその際に、記念碑が設置してある広場の入り口に鳥居のようなモニュメントも新たに設置された。

台湾では鳥居は日本を象徴する建造物として認識されていることから、戦後、台湾各地にあった神社の鳥居はすべて破壊または改築されている。このような状況の中、鳥居を新たに設置したということは台湾では非常に珍しいことである。そこで、この神岡の記念碑を整備した当時の郷長(劉八郎氏)に話を伺ったところ、日本統治時代に造られた碑であり、日本というものを強調したかっただけであるという返事を得た。記念碑周辺における聞き取り調査では、神岡の人々は日本に対するイメージがとても良く、1935 年の震災当時小学生だった方は、日本人の先生と家族の話を熱心に語っていた。こうした神岡区における日本への良い印象が記念碑の修復や環境整備に結びついている可能性がある。

最後に清水街の記念碑では、改竄は 1976 年以前の碑文の消去と 1976 年に行われた碑全体の覆い隠しの計 2 回行われていた。碑文の消去は、戦後、中国国民党軍が台湾を支配した際に日本統治を示すものを無くすために行われたと思われる。これは、内埔や神岡と同様の処置であると考えられる。しかしながら、その後、清水の記念碑において碑全体を覆い隠す工事が行われたのは、この碑が内埔や神岡の碑とは異なった性質を持っていたからであろう。内埔と神岡の碑は、震災追悼碑であるのに対し、清水の碑が皇恩無窮という皇民化運動の象徴であったことが改竄方法の違いに影響を与えたと思われる。そしてこの 2 回目の改竄によって、碑が持つ意義が変えられ、清水の碑は内埔や神岡と同じ震災追悼碑となったのである。また、中段の震災犠牲者名は、碑の設置目的から考えると無かったものと思われる。恐らく、追悼碑に変える目的があったため改竄時に追加されたものであろう。

§4. おわりに

今回の調査により、1935 年台湾新竹-台中地震で建てられた台中州の 3 つの地震記念碑は、当初設置目的はそれぞれ異なり、その後の改竄や修復も地域によって違っていたが、現在は震災追悼碑として保存されていることが分かった。さらに、毎年 4 月に全ての記念碑で追悼式が行われ、碑は過去の地震被害のメッセージを現代まで伝える発信装置の役目を維持していることが明らかとなった。これは政治的変化や時代の移り変わりに関係なく、過去の教訓を残し伝えたいという台湾の人々の意思が記念碑を通して表れた結果であると言える。しかしながら、石碑の一部では年月と共に風化も見られる。過去の災害を伝承し続けているこれらを保存、維持していくことは、防災や減災の観点からみて今後の重要な課題であろう。

謝辞

本研究を進めるにあたり、佛教大学歴史学部教授植村善博先生には終始ご指導頂いた。牛罵頭文化協進会理事長呉長鋌氏には貴重な資料を提供して頂いた。后里区役所、神岡区役所、清水区役所の方々にはデータの提供や聞き取り調査など、様々な点で協力頂いた。国史館台湾文献館、国立台湾図書館、国立台中図書館には資料調査に際しお世話になった。また青木元氏のご指摘により、内容を改善することができた。ここに記して感謝申し上げます。

対象地震: 1935 年台湾新竹-台中地震

文献

- 蔡衡・楊建夫, 2004, 『台灣的斷層與地震』, 遠足文化事業有限公司, 199 pp.
- 蔡紹斌, 1996, 『清水第一街: 大街道深度之旅』, 牛罵頭文化協進會, 186 pp.
- 陳義貞, 2007, 『蔗田倒花郷 后里老照片集』, 后里郷公所, 195 pp.
- 陳正哲, 1999, 『台灣震災重建史 日治震害下建築與都市的新生』, 南天書局有限公司, 234 pp.
- 何培夫, 1997, 『台灣地區現存碑碣圖誌 台中縣市・花蓮県篇』, 国立中央図書館台湾分館, 334 pp.
- 京丹後市史編さん委員会, 2013, 京丹後市史資料編『京丹後市の災害』, 京丹後市役所, 277 pp.
- 賴志彰等編, 1985, 『中縣文獻—墩仔腳大地震專輯 第四期』, 臺中縣政府, 72-80.
- 羅永珍, 2009, 『神岡郷志』, 神岡郷公所, 1273-1275.

台灣總督府, 1936, 『昭和十年臺灣震災誌』, 台灣總督府, 710 pp.

楊紫宗, 1998, 『清水鎮志』, 清水鎮公所, 596-598.

張漢鄒, 1989, 『后里鄉志』, 后里鄉公所, 451-459.

鄭世楠·葉永田, 1989, 『西元 1604 年至 1988 年台灣地區地震目錄』, 中央研究院地球科學研究所, 255 pp.